

編 集 後 記

3月11日に発生した大震災および大停電といった非日常時において、日頃の備えが重要なことを認識させられました。総合情報処理センターにおいても、限られた予算の中で、どのようなことを備えることが出来るかを考えていきたいと思っています。(佐藤)

人文学部では、校舎改修と無線LANのエリア拡大に伴い、(統計をとっているわけではないが)学生サロンや共通学習スペースでのコンピュータを持ち込んで作業している学生の数が増えているように感じています。震災のような非日常では無力であることがわかりましたが、日常では研究教育での情報インフラ活用は不可欠であり、情報通信環境を整備・維持に尽力いただいている総合情報処理センター関連のスタッフに感謝しています。(大橋)

改修中のため、今年度の教育学部サテライトは端末数が13台 だけでした。しかし、授業を除くと皆さんが不自由をしているようには見えません。はたして、皆さんが改修中という“非日常”の環境に上手に適応した結果なのか、そもそも(“日常”)の利用率の低さに基づくものなのか……。いずれにせよ、学内情報インフラをもっと活用しましょう。

最後ではありますが、お忙しい中にも拘らず依頼原稿を快くお引き受けいただいた皆様に深く感謝申し上げます。(櫻田)

夏に行われた電力使用量制限に協力するため、農生サテライトを8月1日から8月21日まで閉鎖することにした。端末とプリンタの待機電力もなくそうと、配電盤のスイッチから落とそうと思ったが、勝手に操作するわけにもいかずセンターに相談した。職員や担当業者の方々が現場の確認に来てくれるなど、積極的に対応していただいた事に感謝する。パソコンは電気がなければただの箱。震災による停電時、ネットワークは非常時の情報収集には無力であることを実感した。(畠山)